

基本計画区民ワークショップ実施概要について

．実施概要

1．目的

基本計画(素案)をもとにして、重点政策を進めていくための区民参加、区民との協働について、幅広い世代の区民意見等を、基本計画(案)に生かすため、基本計画区民ワークショップを実施した。実施にあたっては、日頃区政にあまり関わりのない方の意見などを把握するために、無作為抽出により参加者を募った。

当日は、基本計画(素案)重点政策において「区民ができること」「区や事業者と協働してできること」について、話し合っていたいただき、その内容をそれぞれご提案頂いた。

2．開催日時

平成25年12月8日(日)午後1:00～午後5:30

3．開催場所

世田谷産業プラザ 会議室

4．討議テーマ

基本計画(素案)重点政策において「区民ができること」

5．参加者

満18歳以上の区民を対象として住民基本台帳から無作為に抽出された1,200人に募集案内を送付し、参加意向を示した57人(男性31人、女性26人)を参加対象者とした。

当日は42人(男性25人、女性17人)が参加した。

運営方法

(1) 概要

活発な意見交換が行えるように、参加者を8のグループに分け、ワークショップを実施した。なお、各グループには進行補助としてそれぞれ1名の区職員を配置したため、1グループあたり5～8名となった。

参加者には事前に話し合いたい重点政策のテーマを伺い、提案するグループを分けた。自由な意見交換が行えるよう、セッション毎に参加者がテーブルを移動しつつ議論を行うワールドカフェ方式による話し合いを実施した後、最初のグループに戻り話し合いのまとめを行った。

まとめたものを各グループの提案として、提案の発表と発表を受けた参加者間での質疑応答が行われた。

図表 -1 全体スケジュール

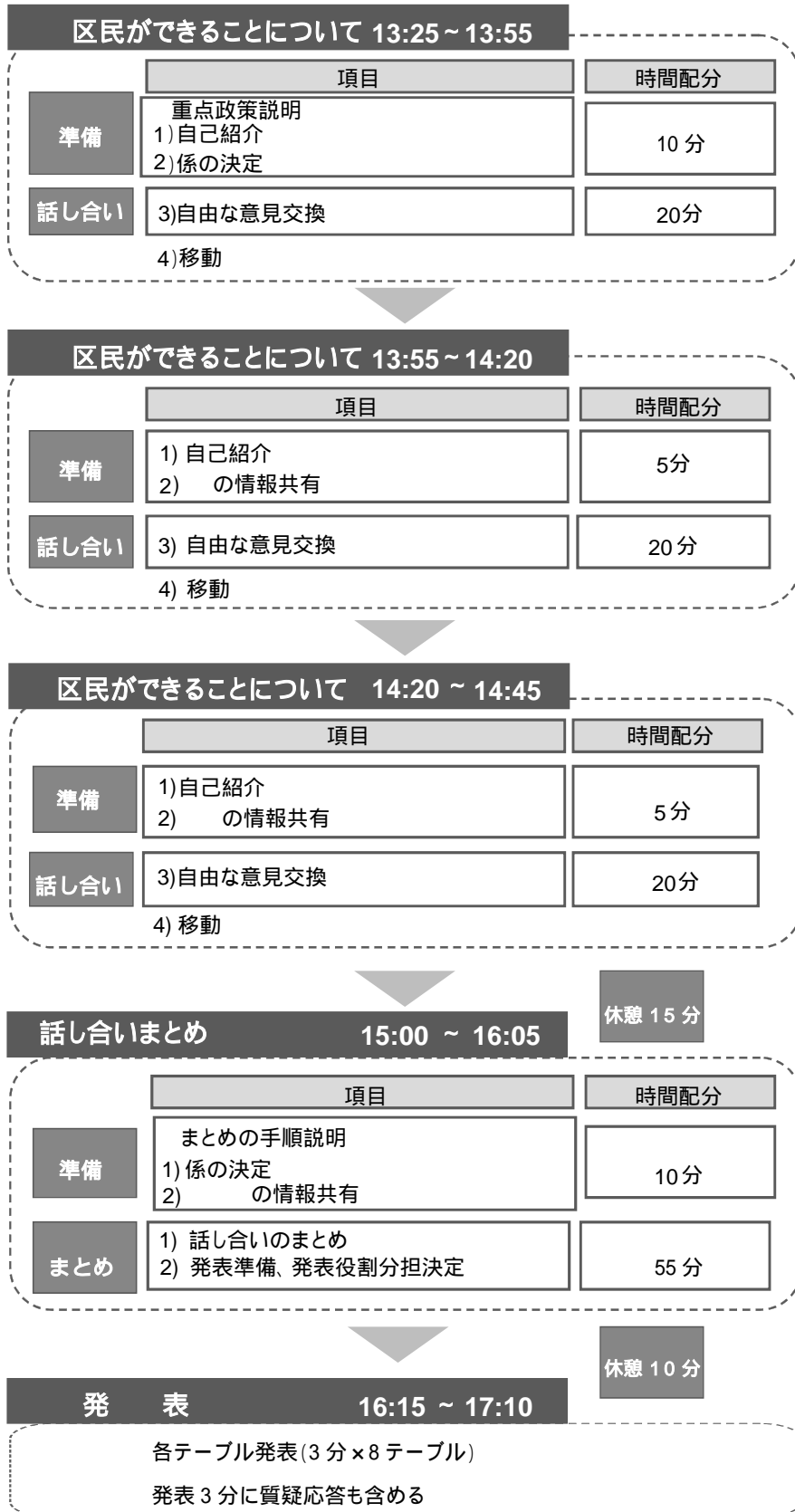
| 項目 | 時刻 | 時間 | 内容 |
|---------|-------------|-----|---|
| 全体ガイダンス | 13:00～13:25 | 25分 | ・挨拶 ・ワークショップ趣旨説明 ・基本計画概要および重点政策背景説明 |
| 話し合い | 13:25～13:55 | 30分 | ・進め方説明 ・自己紹介 テーマ「区民ができること」 |
| 話し合い | 13:55～14:20 | 25分 | テーマ「区民ができること」 別テーマに移動 |
| 話し合い | 14:20～14:45 | 25分 | テーマ「区民ができること」 別テーマに移動 |
| 休憩 | 14:45～15:00 | 15分 | |
| 話し合いまとめ | 15:00～16:05 | 65分 | ・各テーブルのテーマごとに話し合いまとめ ・発表用模造紙記載 |
| 休憩 | 16:05～16:15 | 10分 | |
| 発表 | 16:15～17:10 | 55分 | ・各テーブル発表(3分×8テーブル) 3分に質疑応答も含める |
| 区長挨拶 | 17:10～17:15 | 5分 | ・区長挨拶 |
| 閉会 | 17:15～17:30 | 15分 | ・閉会 ・アンケート記入 など |

(2) 話し合いについて

4つにセッションを分け、重点政策それぞれについて「区民ができること」について話し合った。区民間の自由な意見交換の促進、情報共有などを目的に、セッション毎に参加者がテーブルを移動しつつ議論を行うワールドカフェ方式をとった。

参加者は、始めに各グループで、「区民ができること」について話し合ったあと、テーブルを移動し、また別のグループの参加者と違う重点政策について「区民ができること」について話し合った。その後、初めのグループに戻り、お互いが他のテーブルで見聞きしてきた意見を共有しつつ、「区民ができること」について話し合った。

図表 -2 ワークショップの流れ



(3) 発表について

グループを移動して話し合ってきたことを共有し、最初のグループにおいて重点政策ごとに「区民自身ができること」「区、事業者と協働してできること」について話し合った結果を発表用シートに記載し、最後に全体発表を行った。

図表 -3 発表用シート

| グループNO | 重点政策 |
|--------------------------------------|----------------------------|
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | 区民自身ができること |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |
| | 区民自身ができること |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |
| | 区民自身ができること |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 |
| | 区民と区、事業者が協力してできることに関して出た意見 |

II. 実施結果

重点政策の実現にあたって区民自身ができること

(1) 各グループの提案

下記表に示した通り、8グループより22の提案があった。各グループの提案の詳細について、次頁以降紹介する。

図表 -1 各グループの提案した区民自身ができること

| グループ名 | 人数 | 区民自身ができること | | |
|---------------------------|----|------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| | | | | |
| グループ1 (重点政策 子ども若者) | 5人 | めざせ個性教育 | シニアパワーの活用 | 世田谷らしくない若者イベント |
| グループ2 (重点政策 子ども若者) | 4人 | 子どもを、外で遊ばせるために、PTA、ママ友などを集め、組織をつくる | 子育ての孤立化を防ぐために、サポート制度の広報活動を強化する | |
| グループ3 (重点政策 地域包括) | 4人 | 民生委員の活性化、近所付き合いを深める | 地域で集まれる拠点をつくる、マンション管理人等による見守り | 介護者への声かけ、介護者同士の意見交換場所を設ける |
| グループ4 (重点政策 地域包括) | 4人 | 本人として生きがいを感じられる | 家族として日頃から身近な問題としてとらえる | 地域として、地元のコミュニティに参加 |
| グループ6 (重点政策 コミュニティ) | 7人 | 口コミ、やって満足せずに情報を発信する | 自分自身の特技や趣味や技能を活用した機会の提案と創出 | 挨拶、声かけ |
| グループ8 (重点政策 災害) | 7人 | 町内会等による防災訓練 | 町内会等による個人情報の共有 | 町内会等による備蓄品の啓発 |
| グループ9 (重点政策 文化) | 6人 | 区民主導の文化的イベント(講座、体験談、展覧会等)を開催する | 世田谷の魅力を発信するために世田谷を知る | |
| グループ10 (重点政策 エネルギー) | 5人 | こまめに節電 | ごみの分別を徹底する | エネルギーの生産設備の導入(ソーラーパネル、コンポスト etc) |

当日の参加人数により、グループ5(重点政策「コミュニティ」)をグループ6に、グループ7(重点政策「災害」)をグループ8に再編したため、グループ5とグループ7は欠番となる。

グループ1

| |
|---|
| <p><発表内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性ある教育や保育を伸ばすために、保育園の数を増やしたり基準を緩和したり、公立の中学などに部活の指導者を招くなど、教育の個性化を図ってほしい。 ・お年寄りの力を有効活用する。お年寄りに孫を見てもらってお母さんの時間をつくったり、お年寄りの方が体験談を小学生に話したり。また、高齢者と子どもの施設を同じ場所にすることで、ヘルパーの負担を減らすこともできる。 ・若者がひきつけられるような世田谷ロックフェスやダンス、アニメ、ゲームなど、若者イベントを開催し、若者の参加を増やす。 |
|---|

図表 -2 グループ1の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|--|
| グループNO 1 | <p>重点政策</p> <p>未来の世田谷を担う教育の推進、子育て・若者支援、子どもにやさしいまちづくり</p> |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | <p>区民自身ができること</p> <p>めざせ個性教育！！</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性ある教育保育を伸ばしてほしい ・保育園の数を増やす（区が先導すべき） ・教育の個性化（部活の指導者を招くなど） 杉並区 |
| | <p>区民自身ができること</p> <p>シニアパワーの活用！！</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに孫を見てもらうなど協力・活用 ・お母さんの時間をつくってあげる（子育てから開放） ・小学校にお年寄りに来てもらい、実体験を話してもらう ・高齢施設と子どもの施設を同じ場所にして生きがいに |
| | <p>区民自身ができること</p> <p>世田谷らしくない若者イベント</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャップのあるイベントで引きつける ・ステレオタイプではない多様な興味を持たせる選択肢を支える ・競争の中で個性が芽生えることもある ・平等ではなく競争させてよい。評価されるシステムがあってよい |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | <p>区民自身ができることに関して出た意見</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできることに関して出た意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツコミュニティの支援。つながれる場所づくり。スポーツができる場所の確保 ・アワードの活用（名誉） |

グループ2

<発表内容>

- ・子どもが外で遊べない状況がある。大きな公園では、小さな子どもだけでは遊べなかったり、児童館は充実しているが、小さな子どもと中学生の大きな子どもは一緒に遊べなかったりする。そのため、PTAやママ友などを集めて、大学に直接働きかけ、学生ボランティアを募って活用するのはどうか。
- ・核家族化が進み、子どもを見てくれる人がいない。世田谷区にはファミリーサポート制度（社会福祉協議会ふれあい子育て支援事業）というよい制度があるので、広報活動をして知ってもらおう。

図表 -3 グループ2の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|--|
| グループNO 2 | 重点政策 未来の世田谷を担う教育の推進、子育て・若者支援、子どもにやさしいまちづくり |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | 区民自身ができること 子どもを、外で遊ばせるためには？ PTA、ママ友などを集め、組織をつくる |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 上記の組織が直接大学に働きかけ、学生ボランティアを募集する |
| | 区民自身ができること 子育ての孤立化を防ぐには？ サポート制度の広報活動を強化する |
| | 区民と区、事業者が協力してできること NPOと区の連携を深める（支援者に対するサポート制度を確立する） |
| | 区民自身ができること |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 |
| | 区民と区、事業者が協力してできることに関して出た意見 |

グループ3

| |
|---|
| <p><発表内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶など近所付き合いを深める。民生委員を活性化するため、民生委員の数を増やしたり、若者に委員になってもらったり、待遇を改善する。また、どこまで踏み込んでよいかわからないため、民生委員のガイドラインをつくれればよい。 ・お祭りやお茶会の場をつくるなど、地域で集まれる拠点をつくる。マンションの管理人にお願いして、居住者の安否などを確認してもらう。 ・介護者への声かけ、介護者同士交流の場があるとよい。介護者の負担軽減のために、区ももう少し踏み込む。 ・個人情報保護が壁になっている。また、干渉されたくない人への支援が行き届かないのはどうしようもない。 |
|---|

| |
|--|
| <p><質疑応答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設に頼らざるを得ないのか、在宅中心になるのかという話し合いはあったのか。 <p>回答：うちの中にいると一人だったり引きこもりになったりなどするので、極力集まる場所があって出かければ、気分転換にもなり健康でいれるのではないかと。</p> |
|--|

図表 -4 グループ3の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|--|
| グループNO 3 | 重点政策 高齢者・障害者等の在宅生活を支えるための地域包括ケアシステムと住まい |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | <p>区民自身ができること 民生委員の活性化、近所付き合いを深める</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数の増加（若者の活用） 若者の教育、早くからの地域参加 ・待遇の強化（ボランティアではなく、給料制にする） ・民生委員のガイドラインをつくる |
| | <p>区民自身ができること 地域で集まれる拠点をつくる（お祭り、お茶会の場を作る） マンション管理人等による見守り</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能施設を増やす（小さな老人ホーム） ・郵便・宅配業者による見守り（区と連携） ・地域の医師との連携 |
| | <p>区民自身ができること 介護者への声かけ、介護者同士の意見交換場所を設ける</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできること 介護者の負担軽減 区による積極的な介入、デイサービスの増加 食事・家事等（人的財政的補助）</p> |
| その他 （話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など） | <p>区民自身ができることに関して出た意見 個人情報保護が壁となり、一步踏み込んだ支援ができない 干渉されたくない人への支援が行き届かない</p> |
| | <p>区民と区、事業者が協力してできることに関して出た意見 障害者支援（見守り・財政面）の充実</p> |

グループ4

<発表内容>

- ・高齢者・障害者本人が生きがいを感じられるように支援し、活動できる場を設ける。
- ・家族が日頃から介護の問題を身近な問題としてとらえるために、心構えをし情報の収集を行う。
- ・第3者として、地元のコミュニティに積極的に参加し、高齢者と子どもの交流の場を設ける。

図表 -5 グループ4の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|--|
| グループNO 4 | 重点政策 高齢者・障害者等の在宅生活を支えるための地域包括ケアシステムと住まい |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | 区民自身ができること 本人として生きがいを感じられる |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 支援し、活動できる場を設ける |
| | 区民自身ができること 家族として日頃から身近な問題としてとらえる |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 心構えと情報の収集 |
| | 区民自身ができること 地域として、地元のコミュニティに参加 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 高齢者と子どもの交流の場 |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 |
| | 区民と区、事業者が協力してできることに関して出た意見 |

グループ6

| |
|---|
| <p><発表内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやスマートフォンなどのツールを使い、時代にあった情報発信を実現し、対象者を考えたり、切り口を面白くしたり工夫して情報を届けたい。個人は口コミで情報を届けていく。やって満足せずに、結果を ・多様な参加の機会をつくるために、お祭りや子どもを介したもばかりではなく、自分自身の趣味・趣向を生かした集まりをつくったらどうか。 ・街中で、通りですれ違ったら、挨拶や声かけをする。どうしても誰とも係わり合いを持ちたくない人には、SOSボタンを置き、何かあったら押してもらおう。 ・大学と連携して地域を盛り上げたい。 |
|---|

図表 -6 グループ6の発表用シート

| | |
|---|--------------------------------|
| グループNO 6 | 重点政策 豊かなコミュニティ活動の発展と住民自治の推進 |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| 区民自身ができること 口コミ、やって満足せずに情報を発信する | やっている人とやっていない人の情報ギャップ |
| 区民と区、事業者が協力してできること 時代にあった情報発信を実現する | |
| 区民自身ができること 自分自身の特技や趣味や技能を活用した機会の提案と創出 | 地域活動のバリエーションが少ない |
| 区民と区、事業者が協力してできること 多様なテーマの参加機会をつくる | |
| 区民自身ができること 挨拶、声かけ | 意欲がない人はどうするの？ |
| 区民と区、事業者が協力してできること 目に付くところで活動。SOS ボタンの普及 | |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 大学との連携 |

グループ 8

<発表内容>

- ・避難所がどこにあるかわからない、どのルートで逃げたらよいかかわからない人が多い。町内会等の組織で防災訓練を行い、情報を共有する必要がある。そのためには、区から情報がほしい。また、防災無線は普段聞いたことがないため、本当に機能するのかテストしたらよい。
- ・高齢者や障害者の方がいても誰がどこに住んでいるのかわからないため、区民自身がその情報を把握して災害に備えたらよいのではないか。
- ・自分の備蓄は自分でするしかないため、どれくらい備蓄したらよいかといった情報を共有し、それぞれの家庭で備蓄する。どこの避難所にどれくらいの備蓄品があるのかといった情報を区民に教えて欲しい。
- ・道幅の狭いところが非常に多く、火災が起きたら逃げられないと思うところが多いため、道幅を拡幅する。

図表 -7 グループ 8 の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| グループNO 8 | 重点政策 安全で災害に強いまちづくり |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | 区民自身ができること 町内会等による防災訓練 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 避難所の情報、防災無線のテスト |
| | 区民自身ができること 町内会等による個人情報の共有 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |
| | 区民自身ができること 町内会等による備蓄品の啓発 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 備蓄品情報の共有 |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 道幅の拡幅 |

グループ9

<発表内容>

- ・図書館を知の拠点とするため、区民自身が先生となって、講座などを開催する。開催時間は夜間などのあいている時間を有効活用して進めていく。
- ・世田谷の魅力を発信するために、区民自身が世田谷を知ることが大切だ。そのために、小学校等で自分達の住んでいる地域を知るために作成している「我が街マップ」を編集し、区全体に配る。

<質疑応答>

- ・世田谷の文化のどこがよいという具体的な名称はあがったのか。
 回答：世田谷全体としてこういう文化が特徴だということは決められない。地域独自の文化があるため、それぞれの文化を知ることが大事だ。

図表 -8 グループ9の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|--|
| グループNO 9 | 重点政策 世田谷の文化の創造と知のネットワークづくり |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | 区民自身ができること 区民主導の文化的イベント（講座、体験談、展覧会等）を開催する |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 図書館等を拠点とした上記活動を促進するためのワーキンググループを作る |
| | 区民自身ができること 世田谷の魅力を発信するために世田谷を知る |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 小学校等で作成している「我が街マップ」の総集編を発行する |
| | 区民自身ができること |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること |

グループ 10

| |
|--|
| <p><発表内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが意識を持って自分の家庭で節電をする。そのために、区や電気事業者などが電気使用量などの情報提供をする。 ・区ではどれくらいのごみが出て、分別したごみをどれくらい再利用しているのか、区から情報をフィードバックしてほしい。そうすることにより個人の意識が高まる。 ・公共施設などの大きな施設を中心にソーラーシステムやコンポストなどの生産設備を導入する。 ・エネルギーの生産設備の導入について、区内の新築マンションに小公園をつくるのではなく、ソーラーパネルなどの設置を条例で義務付けるなどすればよいのではないか。 |
|--|

図表 -9 グループ10の発表用シート

| | |
|--------------------------------------|--|
| グループNO 10 | 重点政策 自然の恵みを活かして小さなエネルギーで暮らすまちの実現 |
| メンバー名 | |
| 重点政策の実現にあたって区民自身ができること | |
| | 区民自身ができること こまめに節電 |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 区が節電の目標値を設定するなどしてアピール |
| | 区民自身ができること ごみの分別を徹底する |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 分別したごみをどれだけ再利用できているか 区は集計したデータをフィードバックしてほしい |
| | 区民自身ができること エネルギーの生産設備の導入（ソーラーパネル、コンポスト etc） |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 情報提供と導入にあたっての助成と協力 |
| その他 (話し合いの途中で出た、どうしても残しておきたい意見など) | 区民自身ができることに関して出た意見 ・情報提供と導入にあたっての助成と協力 ・世田谷区ではエネルギー生産できない。その自覚が大事 ・昔の知恵を発信して、生活に取り込んでいく |
| | 区民と区、事業者が協力してできること 区をあげて資源の節約に取り組んでいることをアピール |

(2) 結果概要

「区民ができること」としては、「挨拶、声かけをする」「こまめに節電をする」「やって満足せずに口コミなどで情報を発信する」といった日常生活の心がけから、「自分自身の特技や趣味や技能を活用した機会の提案と創出」「子どもを外で遊ばせるために、PTA、ママ友などを集め、組織をつくる」「町内会等による防災訓練に参加する」といった積極的な活動への参加まで幅広い意見が提案された。

「区民と区、事業者が協働してできること」としては、「高齢施設と子どもの施設を同じ場所にして生きがいにする」「避難所や備蓄品の情報を共有する」といった制度や施設の整備が挙げられたほか、「多様なテーマの参加機会をつくる」「高齢者と子どもの交流の場をつくる」「お祭りやお茶会の場をつくるなど、地域で集まれる拠点をつくる」といった区民参加の促進などについても様々な意見が提案された。